

「合唱してます」

荘白川組 明善寺 大泉信吾

大学時代に男声合唱団に入っていた関係で、卒業してからも合唱団メンバーとして歌わせていただいたり、自坊に帰ってからは地元の合唱団の指導をさせていただいたりしています。去年は国民文化祭の一つとしてベートーヴェンの第九を歌わせていただきました。

合唱（歌）って、年齢性別にかかわらず、どなたでも参加できます。西洋の音楽は和音が中心にありますが、どれだけいい声の持ち主でも他の歌声や伴奏を聞かなければ、いいハーモニーは生まれてきません。一人で二つの音を出すことでできませんし、主張ばかりは具合が悪く、引っ込み過ぎでは、どんな音を出しているかも分かりません。

お浄土は音楽の世界ともいわれます。残念ながらまだ実際に聞くことはできませんが、微妙音という音を聞いてみたいと思います。浄土和讃に「宮商和して自然なり」という言葉がありますが、いわゆるドとレ、隣の音は不協和音で、「ぶつかる音」なんです。それが調和していく、自分の音も相手の音もぶつかることなく響きあっていくことだと思います。

私たちは生きていく中でいろいろな方やいろいろなモノと関わって暮らしています。ともすると、自分に都合のいいものばかりを大切に、周りに集めようとして、苦しい思いをすることがあるかもしれません。しかし、いいことも、悪いことも、好きなものも、嫌いなものも、全て私という因に関係してくるということは共通し

ています。

自分の都合を一番にして取捨選択している私ですが、音楽（合唱）を通じて音の関係性や、自分だけではなく他を聞き、「ハモリ我慢」という番組のコーナーもありますが、自分の担当はしっかり主張する必要があります。それらが成就して、よいハーモニーが生まれるところに、お互いがお互いを認め合う世界もあるのではないかと思います。